

横浜旧東海道 保土ヶ谷宿

歴史とひとにふれあう
よりみち こみち
マップ



東海道五拾三次之内保土ヶ谷新町橋 (保永堂) 広重 (初代) / 横浜市歴史博物館 所蔵

豆知識「宿場の施設とその役割」

- 本陣と脇本陣**
公家、大名、幕府の公用の役人だけが泊まることのできた。本陣で足りなくなると脇本陣が使われた。
- 茶屋本陣**
本陣に匹敵する規模の茶屋で、宿泊しない大名などが休憩した。
- 旅籠**
一般の旅人が宿泊した。飯盛り宿と平宿の区分があった。
- 茶屋**
旅人の休息のための店。
- 問屋場**
公用旅行者の荷物の運搬 (馬糞立) や飛脚の業務を取り扱うところ。
- 助郷会所**
宿場で飼いきれない馬を周囲の村から動員する「助郷」という制度があり、その話所である。
- 高札場**
幕府の掟やお触れを張り出す所で、宿泊代や入馬代も示されていた。
- 一里塚**
街道の両側に行程の目安として、一里ごとに小高く盛り土をして木を植えたもの。
- 見附**
宿場の門の役目で上方見附と江戸方見附がありその間を「宿内」という。要人を宿役人が見附で迎え、大名行列はここから威儀を正して進んだ (見付とも表記される)。

保土ヶ谷宿「食」の旅に出かけよう!!

宿場朝市 ごうどいち

江戸時代から昭和20年代まで行われていた神戸市が現代風に復活。新鮮な保土ヶ谷産の野菜や保土ヶ谷ならではの名物を味わえる。

場所 リブラ保土ヶ谷 (岩井町143-2)
日時 3月、6月、10月、12月の第1日曜日 10時~12時 (変更となる場合があります)
主催 ほどこがや・まち・文化振興会

朝市街道

まちに親しみ、安心できる、楽しめるまちに。旧東海道沿いを中心に、農産物が直接届ける「ほどこがや産野菜」を街道で販売します。

日時 火曜日 10時~売切れまで (日時は変更となる場合があります)
主催 ほどこがや・まち・文化振興会

開催場所等、詳しい情報はホームページをご確認ください

保土ヶ谷宿名物会

1 宿場そば 桑名屋
そばと保土ヶ谷を愛する人に愛される老舗。江戸時代をイメージした外観はもちろん、店内にも保土ヶ谷の歴史に縁深いものが多く展示されている。
住所 岩井町21

2 葉匠 栗山
「境木おじょうさんもなか」、「ごん太餅」など境木周辺を中心に、保土ヶ谷宿の名所旧跡を表現した幅広い商品で人気の和菓子屋店
住所 境木本町1-33

旧東海道地域の歴史

1 江戸時代以前

◆ 旧東海道地域の寺社の多くが平安~江戸時代初期に創建

- 大仙寺: 970年(天禄元年) 開山、神神社: 970年創建・1225年(嘉禄元年) から現在の地、橋樹神社: 1186年(文治2年) 創建、八幡社: 1318年(文保2年) 創建、福聚寺: 1335年(建武2年) 創建 ほか

2 江戸時代

◆ 交通・運輸・商業の中心であった保土ヶ谷宿

- 1601年(慶長6年)には東海道の伝馬制度が定められ、保土ヶ谷宿が置かれました。当時の風景は数多くの浮世絵にも残されており、かつての保土ヶ谷宿の繁栄をうかがうことができます。

◆ 庶民の信仰を示す石仏・石塔

- 保土ヶ谷区の路傍や寺社境内には、江戸時代に建てられた数々の石仏・石塔が残されています。特に、庚申塔は数多く、江戸時代前期から庶民の間で庚申信仰が盛んであったことがうかがえます。
- 橋樹神社には、横浜市内最古といわれている庚申塔があります。

3 明治時代~戦前戦中

◆ 耕地整理による発展の礎づくり

- 1903年(明治36年)から1930年(昭和5年)にかけて大規模な耕地整理が行われ、帷子川周辺の低地部の大規模工場建設や、丘の部分の住宅地形成により、保土ヶ谷の骨格がつけられました。

◆ 別荘地・住宅地や大都市近郊の行楽地としての発展

- 桜ヶ丘付近の丘陵部分には、洋館付き住宅(文化住宅)が多く立地し、ハイカラな雰囲気漂う住宅地として、大正から昭和にかけて人気を集めました。また、程ヶ谷カントリー倶楽部、常盤園、桜ヶ丘の桜並木などは、東京・横浜近郊の行楽地として栄えました。

4 戦後

◆ 河川、道路、鉄道などの大規模土木事業

- 帷子川や今井川の河川改修、新幹線、環状1・2号線、国道1号、保土ヶ谷バイパスなどのインフラ整備が進んでいます。
- 外川神社付近の国道1号沿道には、松並木と一里塚が復元されました。

◆ 特徴のある賑わいの形成

- 1950年(昭和25年)、震災の跡地に洪福寺松原商店街が形成されました。現在では多くの商店が集積し、全国的にも有名な商店街として賑わっています。
- 1990年(平成2年)からは、保土ヶ谷駅周辺の商店街や区民が中心となり、「保土ヶ谷宿まつり」が毎年開催されています。

帷子川の水運を活かした工場地帯としての発展

- 明治時代から戦前にかけて、帷子川沿いに多くの工場(麦酒、硝子、絹糸、曹達、紡績、捺染工場など)が立地しましたが、戦災や接収、公害などの環境問題が原因となり、徐々に保土ヶ谷から撤退していきました。

保土ケ谷宿とは

保土ケ谷宿は、慶長6年(1601年)東海道に宿駅の制度が定められた際に、幕府公認の宿場として誕生しました。江戸から約33km(8里9丁)で品川・川崎・神奈川に続く4番目の宿場です。

宿場が担う役割は、荷物の運搬に要する人馬などの継ぎ立てや旅人の宿泊施設の提供、飛脚の業務などがありました。

街道は、幕府によってすべての管轄が定められていました。保土ケ谷宿は、芝生村追分(現在の西区との境)から、境木地蔵(現在の戸塚区との境)までの約5kmで、追分から北は神奈川宿、境木地蔵より南は戸塚宿の管轄でした。

宿場としての街並みを整えていたのは、約2kmの間で、この間は宿内と呼ばれました。宿内には、本陣を中心に旅籠や茶屋、商店が立ち並び、宿場町として、にぎわいをみせていました。

お休み処 ~保土ケ谷宿のおもてなし~

地域が運営する休憩所です。保土ケ谷宿の魅力を紹介した資料や書籍等を置いてあります。まち歩きの際にお立ち寄りください。

●各お休み処の開館日時は変更する場合があります。

A 帷子番所

住所 帷子町2-71
開館日 月曜を除く毎日
開館時間 12時~15時
運営団体 帷子番所運営委員会



B 旧東海道保土ケ谷宿お休み処

住所 保土ケ谷町1-96
開館日 日曜(4/29、8月の第4日曜を除く)
開館時間 9時~15時
運営団体 保土ケ谷町自治会



発行 横浜市保土ケ谷区役所 区政推進課
〒240-0001 横浜市保土ケ谷区川辺町2-9
TEL: 045-334-6228 FAX: 045-333-7945

協力 飯塚充、ほごがや人・まち・文化振興会

挿絵 村田 啓輔

発行年 平成26年3月 初版
平成30年3月 改訂
令和3年3月 改訂
令和7年3月 改訂
横浜市地形図複製承認番号
令6建部計第9020号



※VOCインキ(石油系揮発剤)など印刷原料と製造工程が環境に配慮されているグリーンプリンティング認定工場にて印刷されています。

保土ケ谷区

歴史スポット

1 追分

旧東海道と旧八王子道との分岐点であると同時に、旧東海道の新町通と古町通の分岐点でもあった。

2 橋樹神社

創建は鎌倉時代初期(1186年)。江戸時代は牛頭天王社とい天王町の由来である。大正時代に現在の橋樹神社となった。祭神は素戔鳴尊。

本殿の裏手には横浜市内最古といわれる寛文9年(1669年)の路が刻まれた青面金剛庚申塔がある。



3 帷子橋跡モニュメント

昭和39年(1964年)の帷子川の河川改修以前は、今の天王町駅前公園に旧帷子橋が架かっていた。



4 神明社

創建は平安時代中期(970年)。当地は伊勢神宮の御領地として寄進され榎谷御厨と呼ばれ、その鎮守として神明社が建立された。祭神は天照大御神。



5 香象院

開山の年代は不詳。保土ケ谷で最大の寺子屋があり、明治6年(1873年)に保土ケ谷小学校の分校となった。保土ケ谷郷土史家・職員正氏の功績を称えた碑がある。真言宗。



6 見光寺

開山は江戸時代初期(1629年)。保土ケ谷の住人で熱心な浄土宗の信者、茂平夫妻が建てた。保土ケ谷出身のコラムニスト青木雨彦氏の句碑がある。



7 天徳院

開山は安土桃山時代(1573年)。本尊は運慶作といわれる地蔵菩薩坐像。土地の豪族、小野筑後守が帰依して建立した。曹洞宗。



8 大蓮寺

開山は江戸時代初期(1625年)。日蓮上人が泊まった家を法華堂に改修したのが寺の始まりのこと。家康の側室おまんの方お手植えのさくらの木がある。日蓮宗。



9 遍照寺

開山の年代は不詳(876年開山とも伝えられる)。本尊の薬師如来像は横浜市指定文化財。念仏百万遍の供養塔や、岡野新田を開拓した岡野家の墓所がある。真言宗。



10 金沢横丁の石碑(道標)

金沢や鎌倉への分岐点。角に道案内の石碑が4基並んでいる。その中に「程ヶ谷の枝道曲がれ梅の花」と杉田梅林への道を示す俳句を詠んだ碑がある。



11 御所台の井戸

(政子の井戸とも)北条政子が鎌倉への途中ここで休んで井戸の水を使ったといわれる。明治天皇が本陣でご休憩された際にもこの井戸の水が使われたという。



12 北向地蔵

金沢道と弘明寺道(鎌倉下の道の名残か?)の分かれの辻に道標を兼ねて、お地蔵様が北向きに建てられた。



13 保土ケ谷本陣跡

宿場の中でも立派な建物である本陣は、代々菊部家がつめた。現在は当時を偲ばせる門や土蔵が残っている。明治3年(1870年)に軽部に改姓し、現在も在住されている。



14 旅籠本金子屋跡

格子戸や通用門が当時の旅籠の雰囲気を与えている。現在の建物は明治時代初期の建築。



15 大仙寺

開山は平安時代中期(969年)といわれ区内で最も古い寺の一つ。本陣をつとめた最朝部家の菩提寺であり、旧東海道からは山門をくぐり参道が続いていた。真言宗。



16 八幡社

創建は鎌倉時代末期(1318年)。祭神は應神天皇。本殿(外からは見えない)は江戸時代初期の建立と伝えられる。菊水観音出現の伝説がある。



17 復元した一里塚と松並木・上方見附モニュメント

平成17年12月、横浜市の事業である第1回「ヨコハマ市民まち普請事業」に選ばれ、平成19年2月、一里塚と松並木が復元した。

場所の制約から十分な大きさの塚を築くことができなかったが、塚の上には昔のように榎を植え、松並木とともに宿場時代の再現に努めた。



18 外川神社

お仙人様の名で親しまれ子供の虫封じに効き目があるといわれた。ご神木のケヤキが見事である。祭神は日本武尊。



19 杉山社

創建年代は不詳だが、市内に数多くある同名社と同じく古社と思われる。祭神は五十猛命。境内の石灯籠には「伊勢大神宮」と銘が刻まれた「怪力石灯籠」の伝説がある。



20 安楽寺

開山は室町時代末期(1535年)。本尊は阿彌陀如来坐像(平安末期、12世紀後半の作)。本堂には境内にあった八幡社の泉から出現したとされる掬水観音も安置されている。真言宗。



21 圓福寺

開山は室町時代初期(1430年)。本尊は地藏菩薩。この本尊には、寺の背後の竹林から出現したという筍地蔵の伝説がある。国道沿いのツジが美しい。真言宗。



22 福聚寺

開山は南北朝時代(1335年)。本尊は釈迦如来。十返舎一九の弟子、五返舎半九の墓がある。臨濟宗建長寺派。



23 樹源寺

鎌倉時代に建てられた医王寺が焼失した後、江戸時代初期(1628年)に菊部家により身延山久遠寺の末寺として開山した。庭園が美しい。日蓮宗。



24 帝釈天と旧元町橋跡

昔、今井川は帝釈天の祠のある山裾に沿って流れ、祠の下あたりに旧元町橋があった。今の元町橋は川筋を変えた後のもの。



25 権太坂

昔は今より急坂で江戸からの旅人がはじめて出会う難所であった。一番坂と二番坂があり松並木が続き景色も良く富士が眺められた。



26 投げ込み塚の碑

昔、街道の近くに旅の途中で行き倒れた人や牛馬を葬った場所があった。その後、平戸の東福寺に手厚く改葬され、供養のためにこの碑が建てられた。



27 境木立場跡

保土ケ谷宿からも戸塚宿からも難所の坂を上り詰めたところに、旅人や馬が休息するための立場が設けられ、数件の茶屋があった。その内の若林家には、明治天皇も休息された。



28 境木地蔵尊

創建は江戸時代初期(1659年)江戸からの講中や道中の安全を祈る旅人が多く参拝した。現在のお堂は関東大震災後、再建された。



29 武相国境モニュメント

この地が武蔵国(保土ケ谷宿)と相模国(戸塚宿)の境であり、昔は木の杭が立てられていたので境木という。このモニュメントは平成17年に設置された。



まちかど博物館

~なりわい・文化・歴史を伝える~

各博物館では、保土ケ谷で積み重ねられてきた歴史・生活文化・なりわいのわざを物語るものを展示しています。ひとつひとつの博物館は、店先のちょっとした空間などを利用した小さなものですが、保土ケ谷の歴史や人々の営みを感じることができます。

【まちかど博物館めぐりの約束】

- まちかど博物館は、各館長の善意により運営されています。マナーを守って見学してください。
- 各博物館の休館日や開館時間は変更する場合があります。
- トイレはお貸しすることができません。

活版印刷と手仕上げ印

ア 後藤印店

戦前に印刷所として開業し、保土ケ谷駅近くの旧東海道沿いに店を構えていましたが、環状1号線の拡幅整備にともない、現在の地に移ってきました。

現在でも、昔ながらの活字と活版印刷機を使用した印刷や、手仕上げの印鑑の製作を行っています。



住所 岩間町 2-184
電話 045-333-4663
休館日 日曜
開館時間 9時~18時
(館長不在時、接客時は対応できませんのでご了承ください。)

薬局の乳鉢

イ キク薬局

この場所で昭和23年から営業している薬局です。昔、このあたり一帯は保土ケ谷区の中で、多くの公共施設が集まっていた。夏祭りには、保土ケ谷中のおみこしが、この前に集まってきました。

昭和時代初期から使っていた、大きな乳鉢や「劇薬」「毒薬」とかかれた乳鉢、昔の天秤などを展示しています。



住所 帷子町 1-2
電話 045-331-0057
休館日 日曜・木曜・祝日
開館時間 10時~16時
(土曜日は15時まで)

保土ケ谷宿場資料館

ウ 宿場そば桑名屋

この地で5代続く蕎麦屋です。館長は、長い間、保土ケ谷の「歴史を活かしたまちづくり」に携わってきました。

お店は深川江戸資料館の船宿を手がけた大工職人に依頼して江戸時代の建物を再現し、昔懐かしい雰囲気や素材を再現しており、浮世絵や保土ケ谷宿に関連する歴史資料などが多く展示されています。



住所 岩井町 21
電話 045-331-0233
休館日 木曜
開館時間 10時~17時

館長よりのごとく 「まちかど博物館」を通じて、保土ケ谷のまちの歴史や魅力を発信して、少しでも保土ケ谷のまちに興味を持っていただければ幸いです。保土ケ谷を想う人の輪を広げていきたいです。

旅籠の面影を残す建造物

エ 旅籠 本金子屋

江戸時代、本金子屋は旅籠として栄えました。明治時代初期に建て替えられた現在の建物も、東海道沿いに建つ旅籠の面影を残しています。敷地内には、本格的な日本庭園(非公開)があり、大正天皇がお忍びで旅をされたときに休まれたといわれている石などがあります。



住所 保土ケ谷町 1-84
※他の博物館とは違い、館長さんが生活されている住宅です。見学は建物外観のみで、庭や建物の内部は公開していません。

権太坂から眺める富士山が絶景

オ 鉾立商店

権太坂を上り切ったところにある商店です。昔からの酒屋に加えて、今はトランポリンの施設も併設して建て替えが行われました。裏手から見える富士山は、保土ケ谷を描いた多くの浮世絵に残されています。



住所 権太坂 1-36-9
電話 045-711-3621
休館日 月曜
開館時間 10時~21時

和菓子の匠のわざ

カ 菓匠 栗山

境木商店会の中にたたずむ菓子屋さんです。和菓子を作るときに使う道具などを展示しています。店先や店内には、館長の描いた絵や女将さん作成のちりめん細工の人形などが飾られています。菓子折りの掛紙にも、季節ごとに描いた館長の絵が使われています。



住所 境木本町 1-33
電話 045-713-2515
休館日 月曜
(祝日の場合は開館)
開館時間 9時~19時
(繁忙期、館長不在時は説明等の対応ができませんので、ご了承ください。)

館長よりのごとく 当店は、保土ケ谷宿の歴史をお菓子や菓子折り掛紙などに表現しております。「まちかど博物館」を巡り、保土ケ谷の歴史に触れながら、美味しい和菓子はいかがでしょうか。